

神奈川県版

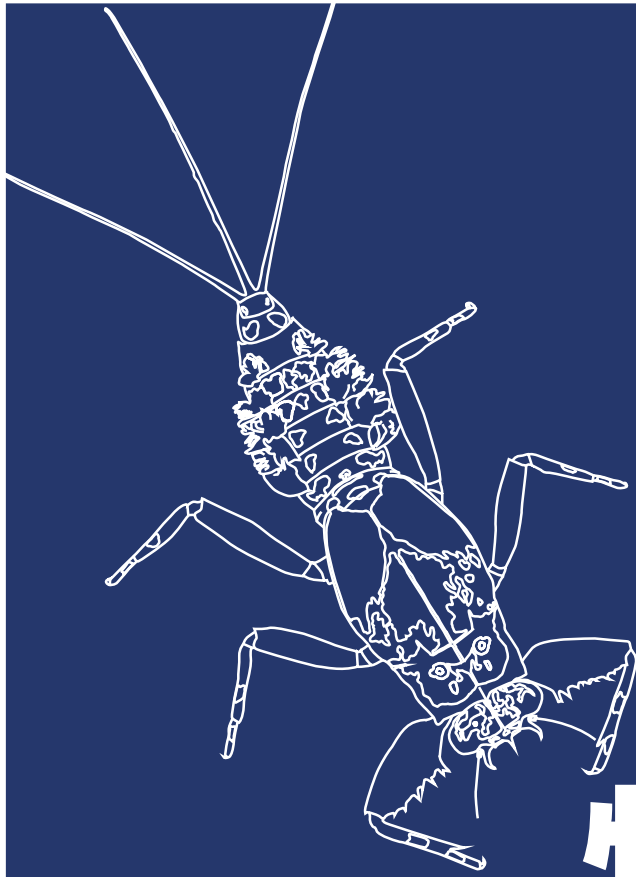
河川生物

物の絵

解

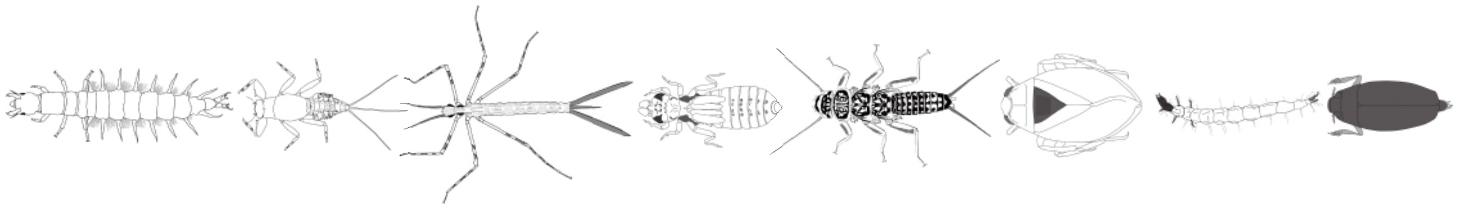
き

検索



Ver.2

神奈川県



はじめに

川の中には、魚類・カエルなどの両生類だけでなく、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、トンボといった昆虫の幼虫、エビやカニ等の甲殻類や貝類といった川底に生息する生物群がいます。これらの生物群は「底生動物」といわれており、魚類・両生類に比べても種数や個体数が多く、河川の生態系を支える上で重要な役割を果たしています。

また、これらの底生動物は、水の流れが速い「瀬」、流れが緩やかな「淵」や川底の砂や泥の中といった河川の物理環境に適応して生息する種がいたり、きれいな水を好む種や汚い水でも耐えられる種がいたりすることから、河川の水質や生態系を評価するための指標としても古くから活用されてきました。

当センターでは、40年以上も前からこうした底生動物の調査研究を続けています。その経験を活かし、2008年度からは水源環境保全事業の中で、生き物に関心のある県民の皆様にご協力いただき、底生動物等の生物調査を続けています。

その調査にあたっては、生きものにあまり詳しくない方でも調査ができるように工夫された「平均スコア法」という手法を採用し、環境省発行の「河川生物の絵解き検索」を参考に底生動物の把握を行ってきました。

しかし、この「河川生物の絵解き検索」は、一部の分類に難しい点があり、経験の浅い調査員では間違った分類をしてしまうという課題がありました。

そのため、この度、過去の調査結果で確認されている県内の生物分布や調査員の方々のご意見等を基にして、「神奈川県版河川生物の絵解き検索」を作成しました。この検索資料は、環境省の「河川生物の絵解き検索」を参考としつつ、生物の写真を多く掲載するとともに同定に役立つポイント等を追記することで、分類に不慣れな方にも間違うことなく生物種を同定できるよう工夫しています。

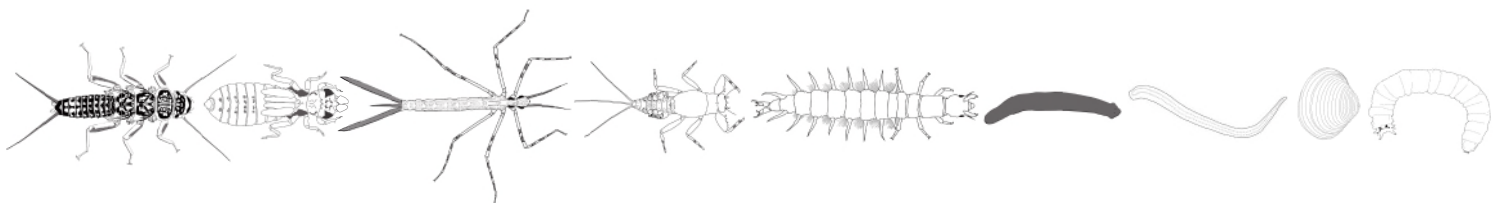
河川生物が豊かであることは、その河川を利用する私たちにとっても、そこが良好な環境であることを意味します。

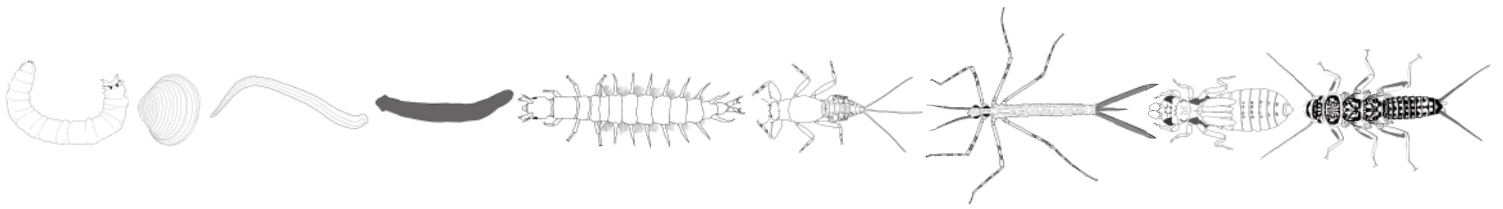
本検索が広く活用され、県内の生物調査の取組が一層進むことと併せ、より多くの皆様が近くを流れる河川の環境に関心を寄せてくださることを願っています。

令和2年3月

神奈川県環境科学センター所長

加藤 洋





もくじ

検索 A：検索のスタート	1	■
検索 B：ハエ目以外の昆虫	2	■
検索 C：カゲロウ目	3	■
検索 C-2：カゲロウ目 2	4	■
検索 D：トンボ目	5	■
検索 E：カワゲラ目	6	■
検索 E-2：カワゲラ目 2	7	■
検索 E-3：カワゲラ目 3	8	■
検索 F：カメムシ目	9	■
検索 G：トビケラ目	10	■
検索 G-2：トビケラ目 2	11	■
検索 G-3：トビケラ目 3	12	■
検索 G-4：トビケラ目 4	13	■
検索 G'：トビケラ目（巣の検索）	14	■
検索 G' -2：トビケラ目（巣の検索） 2	15	■
検索 G' -3：トビケラ目（巣の検索） 3	16	■
検索 G' -4：トビケラ目（巣の検索） 4	17	■
検索 H：コウチュウ目の成虫	18	■
検索 I：コウチュウ目の幼虫	19	■
検索 J：ハエ目	20	■
検索 J-2：ハエ目 2	21	■
検索 K：甲殻類	22	■
検索 K-2：甲殻類 2（ヨコエビ類）	23	■
検索 L：体に節がない動物（貝類）	24	■
検索 L-2：体に節がない動物（貝類） 2	25	■
検索 M：体に節がない動物（プラナリア類など）	26	■
生態シート	27 ~ 64	
用語集	65	
参考文献、作画、写真、原図提供	66	

この検索の使い方・見方

スタート	検索フローの始点
検索〇へ	他の検索ページへの分岐点
△△△科 (8)	検索フローの終点 () 内は平均スコア値
→ →	分岐点での進行方向
★	同定難易度の高い分岐

※ 分類および分類群名、並び順は、基本的に「水生生物による水質評価法マニュアルー日本版平均スコア法ー」（平成 29 年 3 月、環境省）に準拠しています（最新の知見に基づく分類と異なる場合があります）。

